

# 温暖地 水田前作を利用する飼料栽培

秋の労力や湿田の関係、そして秋播き野菜の収穫跡地、紫雲英の冬損のひどい水田等は、田植えまでにはまだ相当期間休閑する事になります。雑草退治と、地力の増進を怠りながら飼料生産を計画しては如何でしょう。

秋の労力や湿田の関係、そして秋播き野菜の収穫跡地、紫雲英の冬損のひどい水田等は、田植えまでにはまだ相当期間休閑する事になります。雑草退治と、地力の増進を怠りながら飼料生産を計画しては如何でしょう。

水田前作の飼料栽培を最も有利に導いてくれるのはなんといつてもイネの晩期栽培であります。しかし早期栽培といえども飼料作物の選定、栽培方法の工夫によつては、充分採算のとれる飼料栽培が可能です。



多くに多量に、地質に、成長し、湿多、涼多、有機質を残すイタリアンライグラス

## 水田前作飼料作物の生育条件

作物名	必要生育条件		霜害	反収
	生育日数	最低発芽温度 最適温度		
燕イタリ アライ グラス	250-300	4-5度	2-3回の晩霜に心配なし	800-1000
カ ベツチ、 豌豆類	250-300	1-2度	霜に弱し	1500-2000
青刈玉蜀黍 スーダン グラス	250-300	8-10度	霜に弱し	1000-1500
大豆、 カウピー	250-300	6-7度	霜に弱し	500-1000
ひまわり	250-300	6-7度	霜に弱し	800-1000

### (一) 水田前作飼料作物はどんなものがよいか

水稲の早期栽培か晩期栽培かによつて、前作利用期間や、その間の気象条件も相当に差がありますので、上に各作物の生育条件を表示して選

上上の参考にしましょう。

これら作物を各種稲作様式に組合せてみますと、  
○早期栽培の前作には 燕麦、イタリアンライグラス、レープ、C・O、かぶ、ベツチ、豌豆等  
○普通栽培の前作には 早期栽培に利用される作物の他、ひまわり、玉蜀黍(モロコシナンバ)、大豆等  
○晩期栽培の前作としては 早期、普通栽培に利用される作物の他にスーダングラス、ソルゴー、カウピー等を挙げることが出来ます。

### (二) 栽培上の注意

#### (イ) 播種はなるべく早く

早期栽培用として選定した前記作物は、いずれも多少の晩霜は発芽当初といえども差支えなく、また玉蜀黍、スーダン、ソルゴー、大豆、カウピー等は発芽当初は霜害を受け易いので、晩霜の心配がなくなつたならば出来るだけ早く播種して、一日でも多くの生育日数を与えますとそれだけ多収となります。

#### (ロ) 出来るだけ多くの作物を混作

○燕麦にはベツチ、豌豆、イタリアンライグラスを。(反当一〜二封度)  
○レープ、C・Oにもイタリアンライグラスを、  
○玉蜀黍、スーダン、ソルゴーには青刈大豆や、大葉つるまめ、カウピーを、  
○ひまわりと玉蜀黍の混作等を行いますと収量も多く、栄養価も釣合いのとれたものになります。

#### (ハ) 播種量は幾分多目に

一般に短期間で収穫するために草のびが十分ではありませんから、収量は草丈に期待せず本数に期待した方が有利です。また畦幅や株間も一般の青刈に比して密な方が有利です。

#### (ニ) かぶは低温感応の鈍い品種を

なるべく寒冷地採種の発芽当初多少の低温に遭つても萎立ちのしない品種、例えば紫丸かぶ等を選びましょう。

## 水田畦畔の草地改良

水田のアゼクロ程牧草の良く生育するところはありません。これの春の改良方法は早春にラデン、ペレニアル、レッドトップ、オーチャードを混播した苗床をつくり、約二カ月もしますと立派な苗が出来ますから、その際に畦草を丁寧に根元から刈取り、一尺隔き位に簡単な植穴を掘り、五、六本の苗を植込んで置きますと、夏以降は殆どが改良された牧草となります。なお途中で雑草が伸びたならば掃除刈りをしますと、一層草の生育が助けられます。

# 温暖多湿の天恵を利用する 飼料の多収穫栽培法

## 温暖多湿の天恵を利用する 飼料の多収穫栽培法

夏季の酷暑は酪農経営にとつては、乳牛の健康上からも、牧草の夏枯れという事からも有難いことではありません。しかしこれも考え方で、徒らにこの気象条件に逆らわず利用する事を考えるのが、自然を相手の農業経営でありましょう。

すなわち乳牛の暑さは畜舎の改善や、牧野の庇陰林の造成、また牧草の夏枯れは、夏季の高温多湿は青刈類の生育を早め、短期多収に結びつくことを考えて対策を樹てるべきでありましょう。特に耕地面積の狭いわが国では、多少の労力と肥料を多用しても少い面積から多くの飼料生産を行わなければなりません。この気象条件と、土地の零細という立地条件下の飼料生産の合理化の一つが集約多毛作でありましょう。

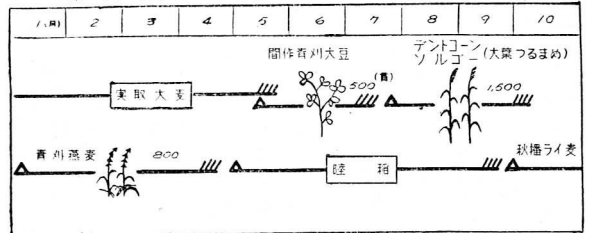
温暖多湿—それは小規模経営下に置かれているわが国の集約多毛作飼料生産にとつては、正に天恵であるとも言えましょう。

### (一) 畑地の集約多毛作の様式

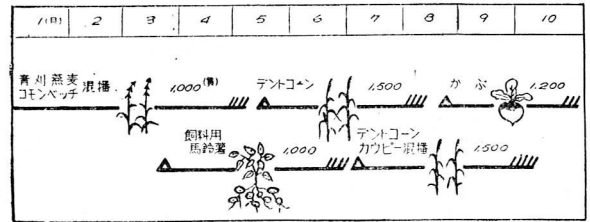
畑地において行われる集約多毛作は一つには従来の穀養生産の裏作、前後作と結びついた様式(例第一図参照)と、飼料専用圃(例第二図)の場合の二通りに大別することが出来ましょう。

(二) 畑地の集約多毛作に利用される適作物  
畑地の集約多毛作に利用される作物はその作物

第一図 実取り作物の前後混作を利用する飼料生産様式



第二図 飼料専用圃の集約多毛作様式



様式に基いて、夫々適作物の選定が行なわれなければなりません。

### (四) 実取り作物と組合せる場合

実取りも冬作で行われる。例えば秋播麦の子実生産の場合はその前後作は何れも高温作物がこれと結びつくことは当然で、玉蜀黍(デントコーン)、スーダングラス、ソルゴー、青刈大豆、大葉つるまめ、カウピー等がその主なものであります。この際特に短期多収の見地からは玉蜀黍(デントコーン)では一〇〇日内外の生育では断然多収な黄色種(エローデント)を、またスーダングラスでは最近各地に大きな被害をみております葉柄病には、耐病性品種(テフト、パイパー等)を、そして早害地帯には、ソルゴーを選定し、しかもこれの単

作に止めず、多収と蛋白増加を狙った大葉つるまめ、カウピー、青刈大豆の混作を是非行つてみたいものです。

また陸稲、豆類等の夏作実取りと結びつくものには、冷涼な時期にもよく生育するレープ、かぶ、青刈麦類(燕麦、ライ麦)、更に短期生育の牧草、イタリアンライグラス、クリムソンクロバール等を早春に前作とし、また秋播後作として利用すべきでありましょう。

### (四) 飼料専用圃の組合せ

飼料専用圃の場合は前記実取り栽培の場合の高温作物、冷涼作物を夫々有利に組合わせて、これ



日照りに強いソルゴー

らを自由自在に使用できることが多くあること、は言うまでもありません。

## 「飼料作物栽培の手引」

### 「草地改良」—着眼とその事例—

一部送料共 各一〇〇円

# 園地の春播きと草生栽培

## 短年作物で今年の雨季の

### 土壌侵蝕を防ぎましょう

傾斜地に多い果樹園の清耕栽培は知らず知らずの裡に、莫大な肥えた表土を流亡して地力を低下して居ります。このために樹勢は弱り生産力が低下し、病害に罹り易く、たださえ果実の値下りで参つて居るところを、多肥と多薬とを要求され果樹園の経営を危殆に陥入れようとしております。

今後の果樹園経営の感ドコロは草生栽培という理想的な土壌管理によつて、ますます予想される生産物安に対抗して行く以外手近な道はないと思われまます。

土壌侵蝕の多くは雨季と台風時に生じます。すなわち果樹園の招かざる客、土壌侵蝕のやつてくるのは夏です。そこで永年草生の行われていないところの秋鋤込みの裸地、秋播ライ麦、ベッチ等の冬作地等は是非とも春播きによつて今年の雨



春播後50日目ライグラス

季の侵蝕を防ぎたいものです。

#### 春播きの草生栽培に利用される作物

作物名	土壌侵蝕防止に最もよく役立つ後日数		摘要	同上時期の反当生草量	反当播種量
	後日数	播種			
青刈大豆	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7
イタリアンライグラス	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7
ベレニアルライグラス	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7
サブクロバ	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7
やはずそう	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7
ラブグラス	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7
カウピー	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7
クリムソンクローバー	60~70日	5~7	再生力大	5~7	5~7

## 春先の草地の手入れ 特に施肥と追播きで多収を

草地は手をかけず、とれるだけ採れ、という観念は原野刈草地の多い、しかも家畜の密度の少かつた昔は通用しましたが、現在のように到るところ開拓され、家畜も増え、その家畜も高い能力のものに切替えられて来ますと、どうしても少い面積から良質、多収を得なければなりません。それには草地も矢張り一般耕地に近い手入れをしていただかなければ、充分働いてくれません。

良質多収の最も手取り早い方法は、施肥であります。「草に肥料をやるなどとはとんでもない」という方は家畜飼育者としての資格が少くとも半分は欠けているとさえいわれております。施肥の効

果は単なる増量だけでなく、草に含まれる栄養価が非常に濃厚となり、量質ともに増収となる事は万人の認めているところであります。今年こそ是非とも春先の手入れの一つとして施肥を。特に磷酸や加里肥料は春の施肥が非常に効きます。また施肥と共に春の草地の手入れとして、牧草の追播きがあります。如何に施肥をしても生えない草は伸びられないからです。

冬の間に枯れたり、前年の過放牧や、秋の放牧の切上げが遅れた為、草生の低下したところは注意してみますと可成りあるものと思われまます。このようなところを牧草の播種は秋が適季だからとそのままにして置きますと一年は遊んでしまします。春播きしても既生の草に負けずに速く生育するつぎのような草種を利用しますと、初夏の候から立派に利用出来る草生となります。

#### ◎春の追播用の適牧草

- 荳科 クリムリンクローバー、サブクロバ、ラデノクローバー、やはずそう
- 禾本科 イタリアンライグラス、ベレニアルライグラス、レスクグラス、K三一フェスク、トールオートグラス

これらの牧草はなるべく早春に播種個所の土壌表面を掻き起して施肥し、二〜三種類を混播（反当混合量で三〜四封度）し、よく踏みつけ鎮圧し、放牧地では草が三〜四〇糎に伸びる迄、柵で囲み家畜に食われたり、踏みつけられたりする事を防いで置きます。家畜は若草のところに好んで集りますから、充分根を張る迄は保護しないと忽ちにして荒されてしまします。

# 開墾地の草地造成と春播きの注意

温暖地の荒地開墾は主として農閑の冬季に行われ、春播きから利用というのが一般の型であります。草草地造成に当つて永年牧草を春播きされる事は一考を要しましょう。何故かと申しますと、開墾地の多くは、

○耕鋤によつて下層の瘠薄土が出て地力が劣つてゐること。

○開墾当年は特に春から夏にかけてまだ野草の旺盛な繁茂が見られること。

等のために元来初期生育の遅い永年牧草は一層生育が遅れ、遂には消滅してしまつた例も各地で見られております。

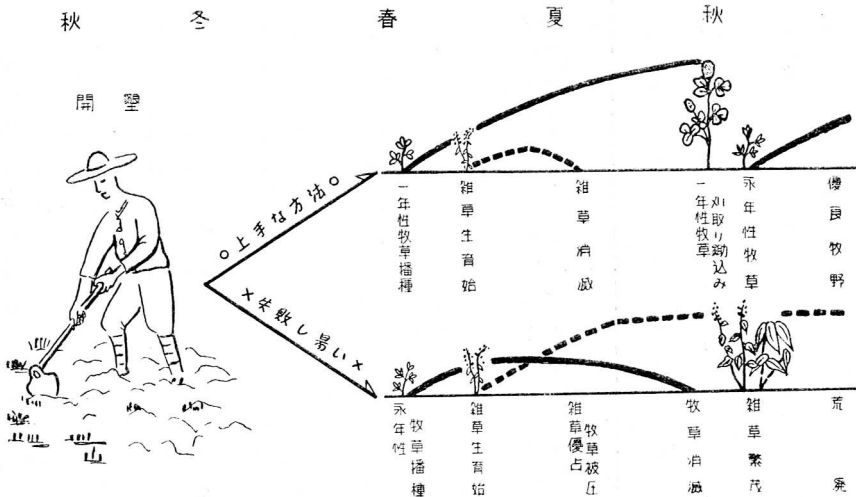
そこで春播きされる牧草については、

(イ) 野草、雑草よりも春先に早く伸びる牧草

(ロ) 土地に多くの有機質を蓄積してくれる牧草

を選ぶべきであります。この条件にピッタリと合うのが、一年生のクリムソンクロパー、イタリアンライグラス等の牧草と、燕麦、ベッチ、豌豆、レープ等の青刈類であります。すなわち開墾地に草地を造成する場合は、先ず春播きは生育の早い一年生牧草や青刈類を播いて、夏迄旺盛な生育をさせ雑草を圧倒し、耕鋤によつて瘠薄となつた表層に有機質を与えるような作付けを行い、夏には刈取つて飼料とするか、出来れば緑肥として鋤込み、その跡地に永年牧草を秋播きすることが、

冬季開墾地の草地造成法の一例



廻り道のようなですが、開墾地の草地造成の一つの賢策であると思われまします。この関係を次に図示してみましよう。

牧草の春播きは雑草のために失敗するからといつて、切角の開墾地を秋迄放置されている方もありますが、これは無駄なことです。

これらの関係をよく教えてくれるものに青森県種畜場のつぎの成績があります。

区分	牧草収量	
	昭三〇(昭三)	(昭三)計(比)
開墾地に春緑肥ひえ播種区	二四二	四二四 (一八三)
開墾後放置区	一六六	二八六 (一七二)
野草地を秋に開墾区	九六	一三〇 (一三四)
		二四六 (一〇〇)

備考 1 反当オーチャード三〇〇反、トルオート二〇〇反、赤クロパー一〇〇反、ラデノクロパー一五〇反、アルサイククロパー五〇反を混播

春開墾区は昭二九年一〇月二日、秋開墾区は昭和三〇年五月一八日播種。

2 開墾時の緑肥は春は野草七〇貫、秋一二〇貫更にひえ緑肥は八〇貫を夫々鋤込んだ。

## 雪たね同友会の御案内

### 会員への御奉仕

- 一割引 各種種子、苗木、球根、書籍を小売価格の一割引いたします。
- 牧草と園芸 毎月一回月刊誌「牧草と園芸」をお送りいたします。
- 試作用種子 御注文の額に依り、新品種その他お奨めできる作物種子の試作用小袋を進呈いたします。
- 御相談 酪農及び園芸に関する相談に応じます。
- 農場見学 技術指導が受けられるほか、適時優先的にサービスを行います。

### 御入会の手続

- ◆雪たね同友会は随時入会できます。
- ◆入会希望の方は会費(一カ年分二百円)を添えて御申下さい。
- ◆会費が入金になると会員名簿に登録して月刊雑誌「牧草と園芸」及び会員番号を附した「会員証」を送ります。会員番号は会員である間は永久に有効です。
- ◆会費が切れますと会員の資格がなくなりますから、そのとき次年度の会費を引続き御送金下さい。